

第2章 自殺の現状と課題

1 自殺の現状

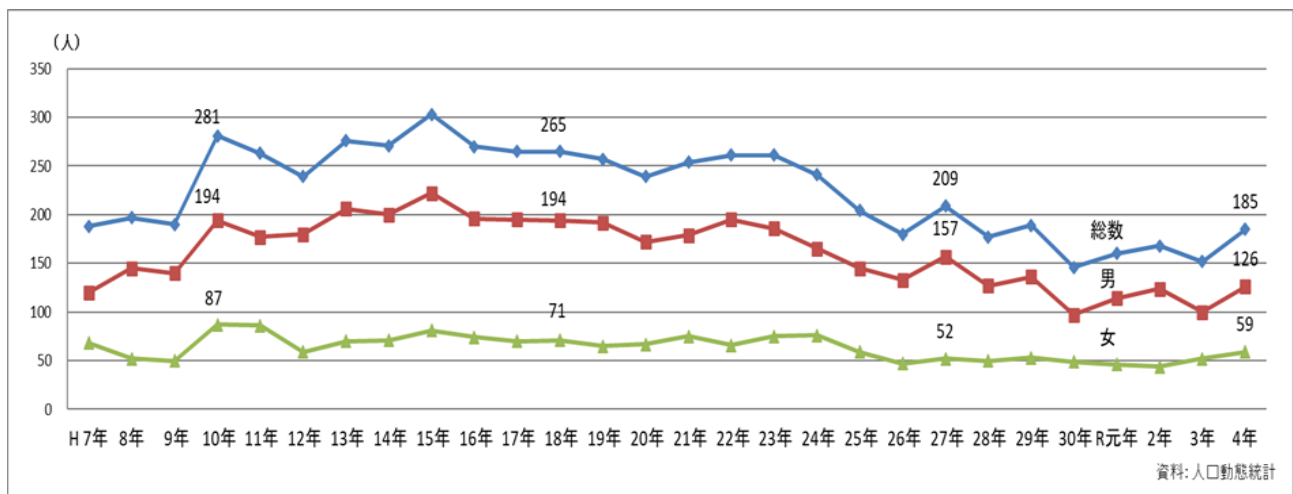
(1) 自殺者数の推移〔図1、2〕

本県の自殺者数は、平成10年に281人まで急増し、その後も同じ水準で推移していましたが、平成25年以降は年により多少の増減はあるものの減少傾向にありました。令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等でやや増加傾向にあり、令和4年には185人となっています。

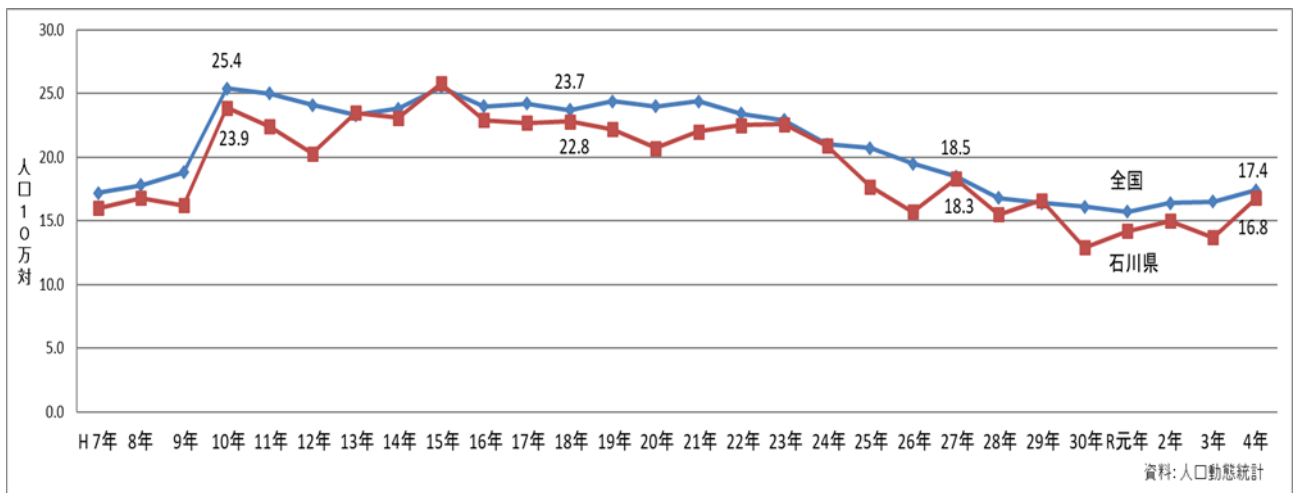
また、全国との自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）の比較では、本県は全国より低く推移しています。

令和4年の自殺者数を性別にみると、男性が126人、女性が59人で、男性が全体の約7割を占めています。

〔図1〕 自殺者数・男女別の推移（石川県）



〔図2〕 自殺死亡率（人口10万対）の推移（全国、石川県）



(2) 年代別の状況 [図3～7]

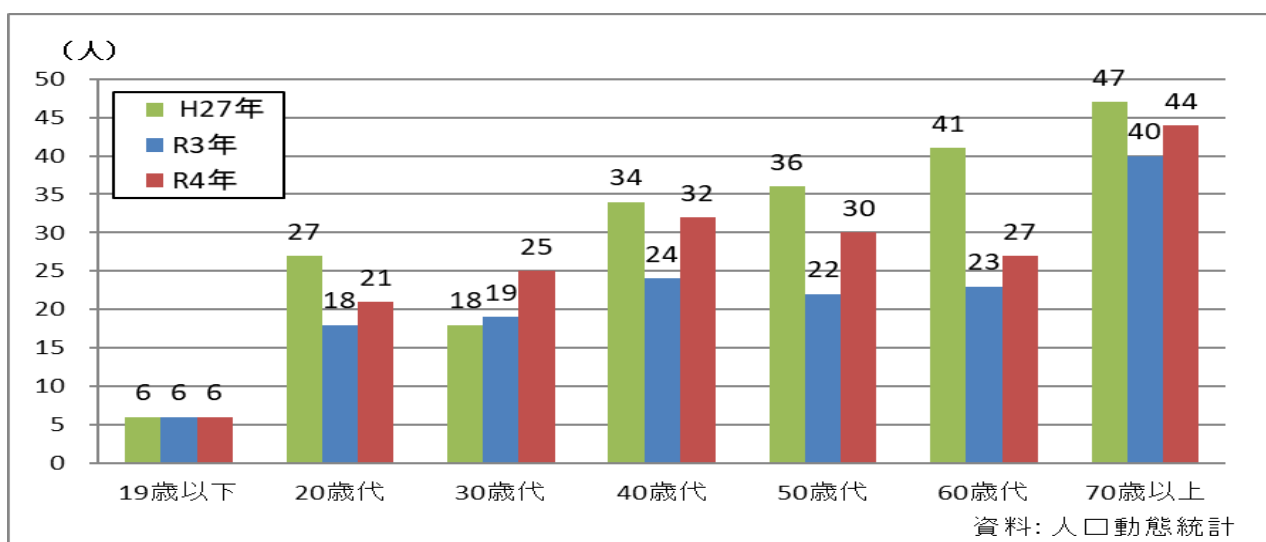
令和4年の自殺者数を年代別にみると、70歳以上が44人(23.8%)で最も多く、次いで40歳代が32人(17.3%)、50歳代が30人(16.2%)となっています。平成27年との比較では、19歳以下は横ばい、30歳代は増加傾向にあります。他の年代は減少傾向にあります。

年代別の自殺死亡率(5年移動平均)を平成27年(平成25～29年)と令和2年(平成30～令和4年)で比較してみると、40歳代では増加傾向、その他の年代では減少傾向となっています。

一方、年代別の自殺死亡率(5年移動平均)を全国と比較してみると、40歳代が高い値となっています。

また、性別、年代別の自殺者数をみると男性では30歳代、女性では19歳以下、20歳代、30歳代、40歳代が増加しています。

[図3] 年代別自殺者数の推移 (石川県：総数)



[図4] 年代別自殺死亡率(5年移動平均)の平成27年と令和元年と2年の比較 (石川県)

